令和８年度第１回袖ケ浦市郷土博物館協議会

１　開催日時　　令和８年７月１７日（金）　午後１時３０分開会

２　開催場所　　郷土博物館　研修室

３　出席委員

委員長	友田　賢司	委　員	加藤　正人
副委員長	唐木　義昭	委　員	地引　尚幸
委　員	前沢　幸雄	委　員	近藤　敏
委　員	山田　悟	委　員	髙橋　久
委　員	今井　惠子		

（欠席委員）

委　員	木曽野　真紀		

４　出席職員

教育長	鴇田　道雄	主　幹	桐村　久美子
生涯学習課長	西原　崇浩	副主幹	前田　雅之
顧　問	稲木　章宏	学芸員	鎌田　望里
館　長	長谷川　秀明		

５　傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	５人
傍聴人数	０人

６　議題

（１）令和７年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

（２）令和８年度郷土博物館の事業計画について

（3）その他

7　議事

友田委員長　では、議題（1）令和７年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　　資料に基づき説明

友田委員長　議題（1）令和７年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について、何か質問ありませんか。

唐木委員　　令和７年度はどういったことをしたかという実績と、令和８年度に何をやるかを伺いたい。まず 34 番、令和７・８年度、袖ケ浦学で波の伊八の話を聞いたが、他の講座を聞いて感じたことだが、当館の学芸員が研鑽を積んで、外部で話すことはあるのか。令和８年度はそのような講話の予定はあるのか。

24 番、市原市歴史博物館では、毎年５月の連休や夏休み、冬休みに体験教室を開く。当館ではあまり気が付かないが、どうだったか。これからまもなく夏休みがくるが、他の博物館は情報が公開されている。８月に虫送り体験や企画展があるが、ほかにあるか、冬休みについてはどうか。

30 番、フィールドマップについて聞きたい。以前、鴨川では８コースを設定していたと話したと思う。市原は 20 コース、姉崎などでボランティアが行っている。他にもないかと確認したら、野田でも５コースを設定して、ボランティアグループが活動している。根形公民館の地域再発見講座が６月に講座があり、これはフィールドマップに反映しても良い内容だった。これらの講座は公民館を通して博物館が実施しているが、博物館で直接実施してもらいたい。

事務局　　今年度は、稲木顧問が木更津で実績を重ねており、桐村が下半期に予定しています。根形や長浦等、市内の公民館からは多く依頼を受けています。

唐木委員　　市外に対するアピールという意味で、市外での実績はないのか、それを聞きたい。

事務局　やはり木更津からの依頼が多いが、今年度下半期には、中郷地域交流センターと千葉県文化財保護協会から依頼を受けています。昨年までの実績は、西原館長が千葉県文化財保護協会と安房学講座、桐村が安房学講座や千葉経済大学の学芸員課程で話をするなど、実績を重ねています。

唐木委員　他の博物館では、長い休みの時は子ども向けイベントをやっていて、案内がホームページにのっている。当館はどうなのか。

事務局　夏休みにはジュニア学芸員講座などの子どもイベント、長い休みではないですが秋に市民学芸員主体の万葉子どもまつりを開催しています。６月にミュージアムフェスティバルを行う関係もありゴールデンウィークにはイベントを入れるのは難しいが、ゴールデンウィークから始まる企画展を開催しています。子ども対象の事業は他館に比べると少ないかもしれないが、当館では博学連携事業に力を入れています。

唐木委員　市原は大きな体験場があっていろいろできるが、こちらはどうなのか。もっとできるのではないか。学校に行くより博物館に来てもらって事業をやった方がよいのではないか。

事務局　市原の方では、ボランティアの人数も多く、またボランティアでない有償のスタッフも雇用されているかと思うので、当館の規模ではそこまでは難しいと考えます。その代わり、学校についてはなるべく受け入れるようにしています。

次に、フィールドマップの話であるが、博物館から行って帰って２時間の範囲で、対象は根形地区になるが、「行ってみようマップ」というものを作ってあります。また、最近、市民学芸員の中にマップの会ができました。これは館山市立博物館の絵図士の活動に触発されたメンバーによるものですが、第１号として国勝神社の境内マップを作っており、軌道にのれば広域のマップ制作も可能と考えます。ほか、刊行物ではないが、鎌倉街道と源頼朝伝説を訪ねるマップも出しています。

唐木委員　公開はしていませんよね

事務局　「行ってみようマップ」と鎌倉街道はＨＰに掲載しています。次に出すなら、横田郷や蔵波川沿いは散策マップができると思います。

唐木委員　袖ケ浦にこういう場所があると見てもらうのが基本だと思う。

今井委員　受付にある両面印刷のロードマップは博物館が作ったものですか。

事務局　それは、博物館で作った「行ってみようマップ」です。バスで来館した人は次のバスまで時間があるので、その不便さを逆に味方につけて、せっかく時間があるんだから、この周辺を歩いてみませんかというコンセプトで作ったマップです。

唐木委員　博物館中心ではなく、各地区で作ってほしい。地域を知ってもらうということで、地域ごとにマップを作るのが基本だと思う。地域ごとに作って広げてもらいたい。

加藤委員　市原は地域ごとの立派なマップを作っている。でも、これは博物館を中心に暇な時間で歩いてもらうというもので、これからいろいろな枠が出てくると思う。私も以前に市内の地域ごとに、神社・寺を中心に、石造物についてマップを作っている。例えば昭和地区で７～８枚あるが、これを全地区で作っている。その延長線上でやれば作ることはできる。わかりやすく歩きやすいように作ればいい。

今井委員　石造物の冊子ができましたよね。

加藤委員　それに地図を入れればいいよね

事務局　当初、この「袖ケ浦の石造物」に地図を入れる計画はありましたが、実際に

歩くのに使える地図を作るとなるとかなりのページ数を取ることと、地図に載せることによる石造物の盗難の心配もあるので、今回は地図をつけず、各地区にこういった石造物があるという情報くらいに留めました。

友田委員長　探して歩く、探す楽しみというのも魅力だと思う。

事務局　　ただし、市内全体の地図に５地区の区分と大字名を入れた、どの地区が市内のどこにあたるのかわかる地図くらいは入れるべきだったと思います。

唐木委員　ボランティアの方たちがやっているが、反応が良いのかなと思っているのが、山野貝塚の現地案内のボランティア。あの人たちが水平展開してほかの地区のマップも作ったらどうか。非常にハードルが高いが、他の地区をみるとボランティアグループが活躍しているので、そういったグループがあった方が良いのかなと思う。

高橋委員　　山野貝塚のボランティアは、貝塚だけではなくて、周遊コースと言って、一周２㎞くらいで、山野だけではなく各遺跡の迂回をして周辺を回るコースを設定している。

唐木委員　　結局、山野が中心ですよね。

高橋委員　　中心でもないですね。真里場古墳とか飽富神社とか、そういった周辺を含めて用意はしている。

唐木委員　　大変だけど、そろそろマップ制作とかそういうことを考えても良い時期だと思う。

加藤委員　　ボランティアは中心になる人を探すのが大変。あちこち言って呼びかけているがなかなか難しい。自分もあちこちに行って呼びかけているが、今後の課題である。人的交流をやって引き入れるしかない。

長谷川館長　今、友の会員とか市民学芸員とか、少しずつ人数が増えているので、さらに増えれば、マップの会などもあるので、そういった活動もできると思っています。急には難しいので、徐々に広がればいいと考えています。

高橋委員　評価からいうとほとんどＡ評価、一部はＢ評価という結果であるが、点検と評価について、今後の対応はあるのか。これは本当に基準になっているのか。×も◎も一緒になって、成果が出ているもの、改善点がないものもそのままになっている。

事務局　それぞれ点検項目で確認し、課題を抽出しました。実績値が目標値に達しなかったものについては今後の対応を検討し、指標としてそぐわないものは８年度には変更し、博物館として基本的にやらなければならない活動も指標にしているので、継続してやらなければならないことは目標を達成していても引き続き指標としています。

今井委員　たまたま市民学芸員でもある人ですが、どこに見に行ったとかそういった形で、博物館だけでなく個人で、SNS で発信している方がいる。また、友の会で水曜午前中に世話になっているが、避難訓練に遭遇したことがない。いつ、どういう形でやっているのか。人がいっぱいだとやりにくいかと思うが、利用者も含めて行うのが理想である。避難訓練はどういう時にどういう形でやっているか。

事務局　毎年必ず実施しているのが、１月の文化財防火デーの時期に、旧進藤家住宅で火災が発生したという想定で行っている訓練です。来館者がいれば一緒に避難し、全員避難した後で、職員が外から残っている人がいないかと声かけ確認をします。本館でも同様で来館者がいれば入るときに話をして、無理強いはしませんが火事や地震が発生した想定で一緒に避難する形で行います。

今井委員　９月と１月に目標として書いてありますよね。

事務局　　１月は旧進藤家住宅での火災を想定した訓練、もう１回は、他館でも関東大震災の時期に合わせて９月に地震を想定した避難訓練をするところが多いかと思うのですが、当館でもそのように計画しました。

友田委員長　では、議題（２）令和８年度郷土博物館の事業計画について事務局から説明をお願いします。

事務局　　資料に基づき説明

高橋委員　　山野貝塚について、来年度は史跡整備計画によると、国指定１０周年ということで、今年度は展示更新と模型の製作があるが、この予定には見えてこない。どこかにあるのか。

事務局　　今年度の予定について、調査研究の詳細は出していないので掲載されていませんが、来年度は山野貝塚指定１０周年を記念した特別展を予定しているため、担当の方は既にその調査には入っています。生涯学習課と協力し、情報交換や協議などを行っています。

高橋委員　　模型はどの程度で考えているのか

長谷川館長　現地に置く模型であれば、担当は生涯学習課になります。昨年度実施設計を作成しました。

高橋委員　　博物館にボランティアとしてくるのは楽しいのですが、そろそろガイドの拠点が欲しい。ガイドが常駐する場所がどこかに作れないか。アクアラインなるほど館も使い道があると思うが、その一角にでもできないか。

長谷川館長　そのあたりのお話は、今後必要に応じて、相談しながら決めていけたらと思います。

友田委員長　模型というのは、ジオラマのようなイメージですか。

西原課長　　模型は、当初計画は立体的に中央窪地を復元しようと思ったが、補助金が付かなくなったので、頓挫している。中央がへこんでいるのがどうしても図面だと表現しにくいので模型を考えたが、場合によっては、図面に落としてそれを活用しようかと思っている。当初の計画なので、中々うまくいかない部分もあるが、できあがったら博物館で展示しようかと考えている。

近藤委員　　史跡整備の話になってくると思うが、今全国で史跡整備は活発ですが、他市や他の史跡との交流や情報交換は行っているか。

西原課長　　情報交換は同じ貝塚の史跡を持っている所とはしているが、具体的な史跡整備の仕方について議論したり、見に行ったりはここ数年はしていません。

近藤委員　　東京北区の飛鳥山博物館に知り合いがいて、あちらも近くに史跡の貝塚があり、都内なので貝塚の中に施設を作るわけにもいかず、飛鳥山の博物館を拠点に考えていて山野と似たような環境なので、向こうの学芸員が山野に興味を持っていると聞いたので、お聞きした。急にたくさん史跡整備の話が出てきて、向こうにも知恵がいっぱい出てきていると思うので、できれば電話でもメールでも連絡を取って、情報共有できるといいと思う。

地引委員　　貝塚つながりで、今年は県が貝塚を押したいという話で、他市とも一緒にやりたいという話を聞いたが、袖ケ浦に話はきているか。

西原課長　　県から県内の貝塚史跡をもっている市町村の職員を委員とした協議会を立ち上げる連絡が来ている。袖ケ浦市では生涯学習課が入っている。これから県内の貝塚を盛り上げていこう、千葉県には貝塚が一番多いということを県民に知らせたいというのが一番のコンセプトで、知事命令で降りている。

地引委員　　袖ケ浦は積極的に行かなければならないところですね。

西原課長　そうですね。他に入っているのは、野田市とか市川市とか、主要な所はほとんど入っていますね。

友田委員長　他、よろしいでしょうか。それでは、議題（3）その他について、事務局の方から何かありますか。

事務局　配布物について説明。

地引委員　チラシにある虫送りについて説明お願いします。

事務局　虫送り体験について説明

地引委員　この質問をしたのは、これすごくいいと思ったのと、当日のイベントの様子は動画で撮りますか。

事務局　具体的には考えていなかったですが、動画で撮影するのは可能だと思います。

地引委員　動画をユーチューブなどで流すと反響が大きいし、行事は終わってしまうと残らないので、残すという意味でも動画があるといいとと思う。そういうものをこれから溜めてくれるといいと思う。昔上総博で虫送りのレプリカがあったが、ヒノキと葉っぱだからすぐ痛むので樹脂加工して、作れる人がいればレプリカ業者に少しずつ作ってもらえればいいかと思う。民俗資料は虫も発生するが、残すものは残さないといけない。袖ケ浦の虫送りは火を使うのか。

事務局　袖ケ浦では虫送りで火を使う話は聞かないです。たいまつを持ったりとか。

地引委員　虫送りは子どもたちが歌を歌うことが多いが。

事務局　野田の事例だと、「わっしょい、豊年」という掛け声で練り歩くのが伝統になっています。地べたをどんどんと叩いて、集落内、田んぼの中を回って、野

田の赤池に最後は入れたらしいのですが、最近では子どもたちは道を行くだけで、田んぼにはちょっと行くだけだったようです。

加藤委員　提案だが文化財の有効活用ということで、進藤家を有効活用できないか。有償でお茶会、コンサートとかで使えないか。法律で難しい面もあるか、その辺どうか。ＮＨＫで文化財の住宅を使って活用しているケースが紹介された。同じ文化財で、ここでできないはずがない。あれだけ立派なので、お雛様だけではもったいない。できるなら有償でいろんな方法でできないか。検討していただきたい。

長谷川館長　文化財に指定されていて、後世に残すということで保存を目的にしているので、いろいろな行事で活用はしていますが、今のところは有償で貸すのは考えていません。

加藤委員　今後考えていきませんか。熱海で起雲閣という指定の建物の事例があったと思う。各地で、有償で貸しているのが結構あるのではないか。

地引委員　房総のむらには旧学習院初等科正堂という国指定の建物があるけれど、有償で貸している。問題は文化財なので、現状変更が難しく、傷をつけられると困るが、机を動かしたりしているので、床は結構痛むんですが、管理上の問題がなければということが１つ条件ですが、そういう例はあります。

加藤委員　いろんな方法があると思います。その前に、できるかできないか、やる意思があるのかないのかを含めて、検討していただきたい。

近藤委員　先ほど、各グループが、下部団体ではないですけれど、博物館でもいろんなグループがあるのに、そういう方たちの横のつながりが薄いという話があったので、各グループ１名でも出て横のつながりを強めればまだできることが増える。バラバラではなく、横つながりが広がれば、新たな連携ができ、例えば虫送りの写真も持っているとか、過去の映像の掘り出しもできるのではそういうこともあると

思います。８㎜をやられていた方もいっぱいいらっしゃる。そういう過去の映像なども掘り出すことができる。

友田委員長　それでは、閉会とします。
みなさん、貴重なご意見、ありがとうございました。

事務局　　慎重審議ありがとうございました。令和８年度第１回袖ケ浦市郷土博物館協議会、これにて閉会といたします。本日はありがとうございました。

閉会

令和８年度第１回袖ケ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日　時　令和８年７月１７日（金）
　　午後１時３０分から３時
場　所　郷土博物館　研修室

１　開　会

２　委員長あいさつ

３　教育長あいさつ

４　議　題
（１）令和７年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について・・・・・　１

（２）令和８年度郷土博物館の事業計画について・・・・・・・・・・・・・　７

（３）その他

６　閉　会

第２２期袖ケ浦市郷土博物館協議会委員名簿

氏　　名	選　出　区　分	備 考
前沢（まえざわ）　幸雄（ゆきお）	学校教育 奈良輪小校長	２期目
山田（やまだ）　悟（さとる）	社会教育 文化協会	１期目
友田（ともだ）　賢司（けんじ）	社会教育 子ども会育成会	３期目
今井（いまい）　恵子（けいこ）	社会教育 郷土博物館友の会	２期目
加藤（かとう）　正人（まさと）	社会教育 市民学芸員	２期目
木曽野（きその）　真紀（まき）	家庭教育 保育ボランティアひよこ	２期目
地引（じびき）　尚幸（ひさゆき）	学識経験者	２期目
近藤（こんどう）　敏（さとし）	学識経験者	２期目
唐木（からき）　義昭（よしあき）	学識経験者	４期目
髙橋（たかはし）　久（ひさし）	学識経験者 公募委員	１期目

任　期　令和７年２月１日から令和９年１月３１日まで

議題（１）令和７年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

１　提案理由

博物館法第９条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、博物館の設置及び運営上の望ましい基準第５条においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ケ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』（別添資料）に基づき、令和７年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

２　目標値設定の考え方

目標値の設定にあたっては、前年に実施した取り組みの成果をもとに設定し、年度ごとに設定するものとする。

３　評価の方法

・「あるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の４段階で表示

◎：目標値に対して100％以上の達成率

○：目標値に対して80％以上100％未満の達成率

△：目標値に対して60％以上80％未満の達成率

×：目標値に対して60％未満の達成率

・評価の基準については、７つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を◎：30 点、○：20 点、△：10 点、×：0 点として活動指標ごとの平均値を出し、Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価

Ａ：施策の効果が十分に図られている。（２４点以上）

Ｂ：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（２４点未満１８点以上）

Ｃ：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。（１８点未満）

４　令和７年度「そではく３５の展望」事業目標値と達成度

展望	あるべき姿	指標	目標値	実績値	達成度	評価
1　地域の資料を守る－資料の収集と保管－						A
①	収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理	収蔵庫環境調査回数	2 回	2 回	◎	30
②	収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復	保存修復委託件数	1 件	2 件	◎	30
③	地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集	資料購入のための市場調査回数	5 回	5 回	◎	30
			3 項目		（平均）	30.0
2　地域を探り、発信する　－調査研究と成果活用－						A
④	袖ケ浦のことなら何でもわかる博物館	ロビー展示の開催回数	5 回	6 回	◎	30
⑤	市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究	企画展アンケート実施回数	2 回	3 回	◎	30
⑥	地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新	ホームページで資料の公開件数	4 件	4 件	◎	30
⑦	地域の自然・環境に関する継続的な調査研究	調査研究を伴う事業の実施回数	2 回	1 回	×	0
⑧	調査研究成果の公開	市史研究・袖ケ浦学等での研究成果発表件数	2 件	3 件	◎	30
⑨	高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3 件	5 件	◎	30
			6 項目		（平均）	25.0
3　学習・知的交流の拠点になる　－展示更新と情報発信－						A
⑩	市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3 回	3 回	◎	30
⑪	わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2 件	2 件	◎	30
⑫	市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施	企画展・特別展見学者数（１回の見学者数平均）	6,500 人	5,598 人	○	20
⑬	市民が自らの意志で参画できる常設展の更新や企画展の開催	市民学芸員自主企画展示実施回数	5 回	6 回	◎	30
⑭	すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入	ＱＲコードによる解説補助	1 件	1 件	◎	30
⑮	未来館者への、来館を促す工夫	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500 人	2,213 人	○	20
⑯	市民のニーズを反映した内容の講座開催	講座でのアンケート調査件数	3 件	1 件	×	0
⑰	さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のＰＲ	インスタグラム更新件数	6 回	45 回	◎	30
⑱	調べ学習や個人研究への図書室資料の活用	図書室利用件数	10 件	12 件	◎	30
⑲	利用者からの質問・相談に対応できる体制整備	レファレンス回答率	100%	100%	◎	30
⑳	相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備	市民学芸員・友の会の活動での施設利用件数	130 件	159 件	◎	30
			11 項目		（平均）	25.5

展望	あるべき姿	指標	目標値	実績値	達成度	評価
4	地域のつながりを活かす　―市民参画と地域連携―					A
㉑	博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築	市民学芸員・友の会員の会員数	105 人	108 人	◎	30
㉒	博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8 回	10 回	◎	30
㉓	地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信	公民館講座のアンケートによる達成度	80%	90%	◎	30
㉔	地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人	延べ 60 人	◎	30
㉕	市民の学び・交流がサポートのための、社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、ＮＰＯ等との交流強化	他団体との連携事業の実施回数	3 回	2 回	△	10
			5 項目		（平均）	26.0
5	安心・安全な施設にする　―施設の維持管理と来館者への配慮―					B
㉖	施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理	施設の安全点検の実施回数	12 回	12 回	◎	30
㉗	包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営	福祉施設見学受け入れ件数	40 件	53 件	◎	30
㉘	危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施	防災訓練の実施回数	2 回	1 回	×	0
			3 項目		（平均）	20.0
6	博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―					A
㉙	周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開	袖ケ浦公園を活用した事業の実施回数	2 回	2 回	◎	30
㉚	博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援	市民学芸員定例会参加者数（平均）	15 人	12 人	○	20
㉛	収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	1 回	2 回	◎	30
			3 項目		（平均）	26.7
7	博物館の個性を生かし、能力を伸ばす－自己研鑽と研修参加					A
㉜	博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集	国等が主催する会議への出席回数（館長）	1 回	3 回	◎	30
㉝	館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び、専門的知識を獲得のための研修等による資質向上	国・県等が主催する研修への出席回数（学芸員）	3 回	9 回	◎	30
㉞	他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与	他機関が主催する研究会等での調査成果の発表回数	1 回	2 回	◎	30
㉟	館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上	業務に必要な情報収集のための研修会参加回数	1 回	1 回	◎	30
			4 項目		（平均）	30.0

令和７年度評価結果　　※（　）は令和６年度

◎：２８項目（３３項目）、○：３項目（２項目）、△：１項目（０項目）、×：３項目（０項目）

７つの活動目標のうち、A評価６（７）、B評価１（０）、C評価０（０）

５「そではく３５の展望」評価結果と令和８年度の目標値

令和７年度の成果をもとに、令和８年度の目標値を設定する。

※令和７年度の指標を変更するものについて、網掛けにしている

展望	あるべき姿	R7 目標値	R7 実績	R7 達成度	指標	R8 目標値
1	地域の資料を守る－資料の収集と保管－					
①	収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理				収蔵庫清掃回数	2 回
②	収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復	1 件	2 件	◎	収蔵資料の保存修復委託件数	1 件
③	地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集	5 回	5 回	◎	資料購入のための市場調査回数	5 回
2	地域を探り、発信する　－調査研究と成果活用－					
④	袖ケ浦のことなら何でもわかる博物館	5 回	6 回	◎	ロビー展示の開催回数	5 回
⑤	市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究				企画展アンケートへの１回あたりの回答者数	100 人
⑥	地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新	4 件	4 件	◎	ホームページで資料の公開件数	4 件
⑦	地域の自然・環境に関する継続的な調査研究	2 回	1 回	×	調査研究を伴う事業の実施回数	2 回
⑧	調査研究成果の公開	2 件	3 件	◎	市史研究・袖ケ浦学等での研究成果発表件数	3 件
⑨	高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流	3 件	5 件	◎	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	4 件
3	学習・知的交流の拠点になる　－展示更新と情報発信－					
⑩	市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元	3 回	3 回	◎	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	4 回
⑪	わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示				双方向性のある展示補助装置の設置（刊行物含む）	2 件
⑫	市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施	6,500 人	5,598 人	○	企画展・特別展見学者数（１回の見学者数平均）	6,500 人
⑬	市民が自らの意志で参画できる常設展の更新や企画展の開催	5 回	6 回	◎	市民学芸員自主企画展示実施回数	5 回
⑭	すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入	1 件	1 件	◎	ＱＲコード等による解説補助の整備	2 件
⑮	未来館者への、来館を促す工夫	2,500 人	2,213 人	○	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2500 人
⑯	市民のニーズを反映した内容の講座開催	3 件	1 件	×	講座でのアンケート調査件数	3 件
⑰	さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のＰＲ	6 回	45 回	◎	インスタグラム等 SNS の更新件数	50 回
⑱	調べ学習や個人研究への図書室資料の活用	10 件	12 件	◎	図書室利用件数	15 件
⑲	利用者からの質問・相談に対応できる体制整備	100%	100%	◎	レファレンス回答率	100%
⑳	相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備	130 件	159 件	◎	市民学芸員・友の会の活動での施設利用件数	150 件

展望	あるべき姿	R7 目標値	R7 実績	R7 達成度	指標	R8 目標値
4	地域のつながりを活かす　―市民参画と地域連携－					
㉑	博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築	105 人	108 人	◎	市民学芸員・友の会員の会員数	110 人
㉒	博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築	8 回	10 回	◎	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8 回
㉓	地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信	80%	90%	◎	公民館講座のアンケートによる達成度	90%
㉔	地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進	延べ 55 人	延べ 60 人	◎	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	60 人
㉕	市民の学び・交流がサポートのための、社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、ＮＰＯ等との交流強化	3 回	2 回	△	他団体との連携事業の実施回数	3 回
5	安心・安全な施設にする　―施設の維持管理と来館者への配慮―					
㉖	施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理	12 回	12 回	◎	施設の安全点検の実施回数	12 回
㉗	包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営	40 件	53 件	◎	英文解説シートの活用件数	10 件
㉘	危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施	2 回	1 回	×	防災訓練の実施回数	2 回
6	博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―					
㉙	周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開	2 回	2 回	◎	袖ケ浦公園を活用した事業の実施回数	2 回
㉚	博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援	15 人	12 人	○	市民学芸員定例会参加者数（平均）	15 人
㉛	収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献	1 回	2 回	◎	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	2 回
7	博物館の個性を生かし、能力を伸ばす－自己研鑽と研修参加					
㉜	博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集	1 回	3 回	◎	国等が主催する会議への出席回数（館長）	3 回
㉝	館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び、専門的知識を獲得のための研修等による資質向上	3 回	9 回	◎	国・県等が主催する研修への出席回数（学芸員）	9 回
㉞	他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与	1 回	2 回	◎	他機関が主催する研究会等での調査成果の発表回数	2 回
㉟	館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上	1 回	1 回	◎	業務に必要な情報収集のための研修会参加回数	1 回

６　今後のスケジュール

令和８年度　７月 17 日　第１回博物館協議会にて審議
８月 20 日　教育委員会協議会にて報告
９月　　ホームページで公開
９月～10 月
「あるべき姿」及び点検・評価内容について見直し作業を実施（令和９年度分）
11 月　第２回博物館協議会にて見直し内容の検討・審議

令和９年度　見直し案に基づき、点検・評価を実施

令和 10 年度　運用（９年度の点検と評価）

７　関連法令

①　博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第９条　博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第９条の２　博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

②　博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第５条　博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、前条第四項の中期計画及び事業計画の達成状況、当該博物館の活動の成果その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

２　博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者及び支援者、地域住民その他の多様な関係者（第六条二項において「多様な関係者」という。）による評価を行うよう努めるものとする。

３　博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

４　博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の方法により、積極的に公表するよう努めるものとする。

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				第1回7月17日				第2回11月17日			第3回2月19日	
博物館運営事業														
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催		第2回実行委員会	6日(土)・7日(日) 第3回実行委員会									
	講座 袖ケ浦学	年5回開催	第182回袖ケ浦学 (友の会共催) 4月19日「房総の彫物大工・伊八と袖ケ浦の寺社彫刻」			第183回袖ケ浦学 7月25日「馬と神仏」				第184回袖ケ浦学 11月7日「星に願いを－古代房総の星信仰－」※企画展関連講演会と合同	第185回袖ケ浦学 考古学講座		第186回袖ケ浦学	
	博物館学芸員実習	7月28日(火)～8月7日(金)(10日間)	・大学からの実習依頼文 ・回答			実習予定表作成・送付 7月28日(火)～8月7日(金)(10日間)	7月28日(火)～8月7日(金)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付					令和9年度要項作成・HP掲載		
	上総掘り井戸掘削事業		掘削場所調整 (アスファルト撤去・木材発注等)			上総掘りボランティア募集		上総掘りボランティア事前研修					アシバ組み立て	
	その他					ジュニア学芸員体験講座								
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		小学校6年生 校外学習								小学校3年生 校外学習		
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展年2回開催	R7年度企画展Ⅲ 「袖ケ浦の美術Ⅲ 飯塚勝康展」 ～4月12日			企画展Ⅰ「みんなの昭和、わが家の100年」 7月4日(土)～8月23日(日) 関連イベント2回・展示解説会			企画展Ⅱ「星の導き、天の声」 10月3日(土)～12月13日(日) ・企画展関連講演会(2回)・関連バスツアー・展示解説会					
	トピックス展　ミニ展示											ロビー展示「日本の郷土凧」		
	アクアラインなるほど館		閉館準備 模型移設	本館展示運用開始 広報・HPで周知		休憩施設・収蔵庫運用開始								
	旧進藤家住宅			五月人形展示(市民学芸員)	盆栽展(ミュージアムフェスティバル)			十五夜展示(市民学芸員)		盆栽展				ひな人形展示(市民学芸員)
	万葉植物園	屋外施設の活用												
地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)				環境調査(2回目)			資料燻蒸		
	史料修復　奈良輪漁協				史料修復委託執行伺い・契約						史料修復成果品納品			
	『市史研究』第23号	編集・刊行												
市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画 ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会　第3土曜日午後活動(体験学習室)		五月人形展示(旧進藤家住宅)	6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル	七夕展示		十五夜展示(旧進藤家住宅)	21日(水)第1回市民学芸員フォローアップ研修 万葉こどもまつり		お飾りづくり		22日(日)第2回市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	ひな人形展示(旧進藤家住宅)
	市民学芸員養成講座	年間11回・広報で募集	18日(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	9日(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	20日(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	29日(水)市民学芸員養成講座④IPMについて学ぼう(博物館実習と合同)	22日(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖！そではく辛口採点会	19日(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	10日(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	14日(土)または21日(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	19日(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	23日(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	20日(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
施設管理事業		施設の修繕・工事等						避難訓練①				避難訓練②		
友の会　7グループ (仏像を学ぶ会、太古の会、凧の会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会、植物画の会)活動		協働事業：自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	総会		6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル				第1回役員会	第2回自然と歴史の散策会		新春凧揚げ大会	第2回役員会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会		6日(土)・7日(日) ミュージアム・フェスティバル									
休館日			6日(月)・13日(月)・20日(月)・30日(木)	7日(木)・11日(月)・18日(月)・25日(月)	1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・29日(月)	6日(月)・13日(月)・21日(火)・27日(月)	3日(月)・10日(月)・12日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)	7日(月)・14日(月)・24日(木)・28日(月)	5日(月)・13日(火)・19日(月)・26日(月)	2日(月)・4日(水)・9日(月)・16日(月)・24日(火)・30日(月)	7日(月)・14日(月)・21日(月)・26日(土)～31日(木)	1日(金)～4日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)	1日(月)・8日(月)・12日(金)・15日(月)・22日(月)・24日(水)	1日(月)・8日(月)・15日(月)・23日(火)・29日(月)

令和７年度
袖ケ浦市郷土博物館の
運営に関する点検と評価

令和８年７月

袖ケ浦市郷土博物館

１．はじめに

博物館法第９条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、博物館の設置及び運営上の望ましい基準第５条第４項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ケ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』（別添資料）に基づき、令和７年度の博物館運営について点検と評価をしようとするものである

袖ケ浦市郷土博物館では、平成２４年７月に策定した『袖ケ浦市郷土博物館の使命－そではく３０の展望－』の１０年の成果を受け、開館４０周年の節目において、点検・評価内容を確認・修正し、『袖ケ浦市郷土博物館の使命－そではく３５の展望－』を提示した。そではくが地域博物館として果たす４つの使命を遂行するための７つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして３５項目のあるべき姿を設定し、博物館活動の点検と評価を行っていくものである。この３５項目のあるべき姿をもって－そではく３５の展望－とした。

◎地域博物館として果たす４つの使命

①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。

③市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

④博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

そではくは、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の４点を使命とします。

２．評価の方法

・「３５のあるべき姿」の取り組み項目すべてに年度ごとに課題等を踏まえた目標値を設定し、実績値と達成度を示す。

達成度を◎ ○ △ ×の４段階で表示

◎：目標値に対して100％以上の達成率

○：目標値に対して80％以上100％未満の達成率

△：目標値に対して60％以上80％未満の達成率

×：目標値に対して60％未満の達成率

・評価の基準については、７つの活動目標単位ごとの目標値に対する達成度を

◎：30 点、○：20 点、△：10 点、×：0 点として活動目標ごとの平均値を出し、Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価

Ａ：施策の効果が十分に図られている。（２４点以上）

Ｂ：施策の効果が図られ、一定の成果があった。（２４点未満１８点以上）

Ｃ：施策の効果が十分に図られているとは言えず改善が必要である。（１８点未満）

３　令和７年度「そではく３５の展望」事業目標値と達成度

展望	あるべき姿	指標	目標値	実績値	達成度	評価
1　地域の資料を守る－資料の収集と保管－						A
①	収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理	収蔵庫環境調査回数	2 回	2 回	◎	30
②	収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復	保存修復委託件数	1 件	2 件	◎	30
③	地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集	資料購入のための市場調査回数	5 回	5 回	◎	30
			3 項目		（平均）	30.0
2　地域を探り、発信する　－調査研究と成果活用－						A
④	袖ケ浦のことなら何でもわかる博物館	ロビー展示の開催回数	5 回	6 回	◎	30
⑤	市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究	企画展アンケート実施回数	2 回	3 回	◎	30
⑥	地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新	ホームページで資料の公開件数	4 件	4 件	◎	30
⑦	地域の自然・環境に関する継続的な調査研究	調査研究を伴う事業の実施回数	2 回	1 回	×	0
⑧	調査研究成果の公開	市史研究・袖ケ浦学等での研究成果発表件数	2 件	3 件	◎	30
⑨	高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3 件	5 件	◎	30
			6 項目		（平均）	25.0
3　学習・知的交流の拠点になる　－展示更新と情報発信－						A
⑩	市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3 回	3 回	◎	30
⑪	わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2 件	2 件	◎	30
⑫	市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施	企画展・特別展見学者数（１回の見学者数平均）	6,500 人	5,598 人	○	20
⑬	市民が自らの意志で参画できる常設展の更新や企画展の開催	市民学芸員自主企画展示実施回数	5 回	6 回	◎	30
⑭	すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入	ＱＲコードによる解説補助	1 件	1 件	◎	30
⑮	未来館者への、来館を促す工夫	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500 人	2,213 人	○	20
⑯	市民のニーズを反映した内容の講座開催	講座でのアンケート調査件数	3 件	1 件	×	0
⑰	さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のＰＲ	インスタグラム更新件数	6 回	45 回	◎	30
⑱	調べ学習や個人研究への図書室資料の活用	図書室利用件数	10 件	12 件	◎	30
⑲	利用者からの質問・相談に対応できる体制整備	レファレンス回答率	100%	100%	◎	30
⑳	相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備	市民学芸員・友の会の活動での施設利用件数	130 件	159 件	◎	30
			11 項目		（平均）	25.5

展望	あるべき姿	指標	目標値	実績値	達成度	評価
4	地域のつながりを活かす　―市民参画と地域連携―					A
㉑	博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築	市民学芸員・友の会員の会員数	105 人	108 人	◎	30
㉒	博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8 回	10 回	◎	30
㉓	地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信	公民館講座のアンケートによる達成度	80%	90%	◎	30
㉔	地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人	延べ 60 人	◎	30
㉕	市民の学び・交流がサポートのための、社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、ＮＰＯ等との交流強化	他団体との連携事業の実施回数	3 回	2 回	△	10
			5 項目		（平均）	26.0
5	安心・安全な施設にする　―施設の維持管理と来館者への配慮―					B
㉖	施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理	施設の安全点検の実施回数	12 回	12 回	◎	30
㉗	包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営	福祉施設見学受け入れ件数	40 件	53 件	◎	30
㉘	危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施	防災訓練の実施回数	2 回	1 回	×	0
			3 項目		（平均）	20.0
6	博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―					A
㉙	周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開	袖ケ浦公園を活用した事業の実施回数	2 回	2 回	◎	30
㉚	博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援	市民学芸員定例会参加者数（平均）	15 人	12 人	○	20
㉛	収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	1 回	2 回	◎	30
			3 項目		（平均）	26.7
7	博物館の個性を生かし、能力を伸ばす―自己研鑽と研修参加					A
㉜	博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集	国等が主催する会議への出席回数（館長）	1 回	3 回	◎	30
㉝	館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び、専門的知識を獲得のための研修等による資質向上	国・県等が主催する研修への出席回数（学芸員）	3 回	9 回	◎	30
㉞	他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与	他機関が主催する研究会等での調査成果の発表回数	1 回	2 回	◎	30
㉟	館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上	業務に必要な情報収集のための研修会参加回数	1 回	1 回	◎	30
			4 項目		（平均）	30.0

令和７年度評価結果　　※（　）は令和６年度

◎：２８項目（３３項目）、○：３項目（２項目）、△：１項目（０項目）、×：３項目（０項目）

７つの活動目標のうち、A評価６（7）、B評価１（0）、C評価０（0）

４　そではく３５の展望　取り組み状況

Ⅰ　活動目標　　（１）地域の資料を守る－資料の収集と保管－

Ⅱ　あるべき姿

１.収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。展望①

２．市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②

３．地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望①）

・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理を実施

・収蔵環境調査(7 月から 11 月の間で 2 回)

①昆虫類生息調査　②空中浮遊カビ類調査　③酸・アルカリ調査　④有機酸濃度測定調査

⑤屋外昆虫侵入防止処理（1 回目のみ）

結果：本館内では荷解室周辺でゲジ捕獲あり。他、本館内では虫の捕獲なし。

真菌数・有機酸・アンモニア濃度問題なし。

・収蔵庫内清掃、資料整理実施、資料燻蒸業務委託（二酸化炭素)、特別展示室で実施

あるべき姿２（35 の展望②）

・旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え

・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた

・収蔵資料の修復委託　２件

：旧奈良輪漁組文書(平成 22 年度～)　31 点実施　861/1,132 点

：西原遺跡出土呪符木簡再保存処理委託

あるべき姿３（35 の展望③）

・寄贈・寄託資料の受入れ　新規寄贈資料件数　11 件

・寄託から寄贈への移行　５件

・古書店やインターネットへの市外流出資料の調査　５回、購入１件

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1.収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理　**展望①**	収蔵庫環境調査回数	２回	２回	◎
2.収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復　**展望②**	収蔵資料の保存修復委託件数	１件	２件	◎
3.地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集　**展望③**	資料購入を目的とした市場調査回数	５回	５回	◎

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望①）

・日常的な管理により適切に保管できている。

・日常の注意と迅速な処理により、昨年度より本館内での文化財害虫の確認数は減少した。

あるべき姿２（35 の展望②）

・古文書の箱と封筒を中性紙のものに入れ替え、古文書の適切な管理を進めた。

・封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。

・新収蔵古文書のデータベース化を進めた。

あるべき姿３（35 の展望③）

・寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。

・市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。

◆課　題

あるべき姿１（35 の展望①）

・荷解室を中心に、館内に害虫が侵入する隙間が見られる。

・年１回の委託による燻蒸を二酸化炭素で行ったため、カビ汚染要素のある資料の収納が保留になっている。

あるべき姿２（35 の展望②）

・古文書が読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。

・出土鉄製品について、簡易的なパッキングも行われていないものが多い。

あるべき姿３（35 の展望③）

・寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料がある。

・返却した目録掲載資料について、現状がわからなくなっている。

◆今後の対応

あるべき姿１（35 の展望①）

・収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。

・令和８年度はガス燻蒸を実施する。

あるべき姿２（35 の展望②）

・古文書が読める作業者についての情報収集

・鉄製品は科学的な保存処理を行う必要があるが、簡易的なパッキングだけでも進める。

あるべき姿３（35 の展望③）

・市外流出資料については、引き続き調査を行う。

・現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。

Ⅰ　活動目標　　（２）地域を探り、発信する　－調査研究と成果活用－

Ⅱ　あるべき姿

１．袖ケ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④

２．市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤

３．地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥

４．地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦
５．調査研究の成果が公開されている。展望⑧
６．高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流ができている。展望⑨

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望④）

・各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。
・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開
・『袖ケ浦市史研究』第 23 号募集
・ロビー展示の開催　　6 回
　：博物館実習展示、「戦後 80 年、あの時、あの頃･･･そして今」、大凧展示、　市民学芸員自主企画ロビー展示　3 回

あるべき姿２（35 の展望⑤）

・企画展に伴うアンケートの実施　　３回
・市民学芸員と協働での企画展調査の実施
・テーマを設定した調査研究の実施
　：袖ケ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査、古代の植物利用に関する調査、収蔵資料の精査

あるべき姿３（35 の展望⑥）

・博物館ホームページ上で資料の公開　　4 件
・古文書、民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成
・収蔵資料の活用・公開
　：閲覧 13 件・資料貸与 3 件・写真資料掲載　許可取り扱い 13 件
・埋蔵文化財ポジフィルムのデジタル化　８遺跡分

あるべき姿４（35 の展望⑦）

・企画展Ⅱにおいて鳥類に関する調査成果の展示をした。
・企画展Ⅱ関連事業と袖ケ浦学で野鳥観察会を行った。・

あるべき姿５（35 の展望⑧）

・『袖ケ浦市史研究』第 23 号の募集
・企画展での調査研究成果公開、図録の刊行（2 回）
　：企画展Ⅰ「村のくらしと一大事」、企画展Ⅱ「鳥をめぐるものがたり」
・企画展関連事業（展示解説会）による研究成果発表（６回）
・袖ケ浦学による地域研究成果発表。
・考古学講座の実施による袖ケ浦の古墳時代についての研究発表。
　：博物館職員の研究成果発表 2 件
・地域文化財報告書の刊行

あるべき姿６（35 の展望⑨）

・専門研究者による袖ケ浦市史研究への応募　3 人
・講座での専門研究者の発表（袖ケ浦学、考古学講座、企画展関連講座）
・企画展にかかわる専門研究者との交流
・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成　実習生　4 名

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
１．袖ケ浦のことなら何でもわかる博物館 **展望④**	ロビー展示の開催回数	５回	６回	◎
２．市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究 **展望⑤**	企画展アンケート実施回数	２回	３回	◎
３．地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新 **展望⑥**	ホームページで資料の公開件数	４件	４件	◎
４.地域の自然・環境に関する継続的な調査研究 **展望⑦**	調査研究を伴う事業の実施回数	２回	１回	×
５.調査研究の成果の公開 **展望⑧**	市史研究・袖ケ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	２件	２件	◎
６.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流 **展望⑨**	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	３件	５件	◎

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望④）

・新たな学びの目的を創造できる生涯学習の拠点として、地域の歴史や文化を理解する機会を提供することができた。

・過去の企画展の成果品などを活用し、ロビー展示をタイムリーに開催することができた。

あるべき姿２（35 の展望⑤）

・アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた

・市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。

・考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。

あるべき姿３（35 の展望⑥）

・新規の資料・情報を収集・保管することで、地域研究に資する資料の幅が広がった。

・埋蔵文化財写真のデジタル化を進めることができた。

・資料整理に専従する会計年度任用職員の雇用により、近年受け入れた資料の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。

・ホームページでの資料公開は４件実施した。

　ラーゲリからの便り・埴輪棺・人面墨書土器・万葉植物園歌碑解説

あるべき姿４（35 の展望⑦）

・鳥を中心とした袖ケ浦の自然環境について調査を行うことで情報収集や現状把握ができた。

・野鳥観察会は、毎年実施することで、新たなデータを蓄積することができた。

あるべき姿５（35 の展望⑧）

・調査研究の成果を企画展として公開し、図録刊行により来館者に情報を提供することができた。

・袖ケ浦学・考古学講座等により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。

・地域文化財報告書の刊行により、石造物の調査成果を公開することができた。

あるべき姿６（35 の展望⑨）
・講座等を通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者の協力体制を作ることができた。
・資料閲覧で来館する研究者や袖ケ浦学の講師等と積極的に交流を試みた。
・佐久間家文書の調査については館職員も参加した研究会に発展している。
・他の博物館職員とは資料閲覧を中心とした交流・情報交換が継続している。

◆課　題
あるべき姿１（35 の展望④）
・来館者の疑問に対しては個別対応となることが多く、専門職員が足りないため、対応が後回しになることがある。
あるべき姿２（35 の展望⑤）
・一度も来館したことがない市民へのニーズ調査ができていない。
・他業務等により、職員の調査研究のための時間の確保が難しい
あるべき姿３（35 の展望⑥）
・データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない
・所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。
あるべき姿４（35 の展望⑦）
・自然系専門職員の不在により、調査や事業の実施が困難になった。
・専門職員が配置されていないと定期的な調査やデータの蓄積が難しい。
あるべき姿５（35 の展望⑧）
・市史研究及び袖ケ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。
・企画展等の研究成果は単発で終わることが多く、継続した研究体制ができていない。
あるべき姿６（35 の展望⑨）
・交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。
・外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料の理解や情報整理を進めておく必要がある。

◆今後の対応
あるべき姿１（35 の展望④）
・わかりやすい情報提供のために解説シート等を増やす。
・市民学芸員とも連携し、散策マップについて、新たに作成する。
あるべき姿２（35 の展望⑤）
・来館しない市民に対し、申し込みフォームを活用したアンケート等を検討する。
・事業を整理し、調査研究できる状況を確保する。
あるべき姿３（35 の展望⑥）
・活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。
・返却した資料の現況調査を行う。
あるべき姿４（35 の展望⑦）
・自然系専門職員を配置する必要がある。
・引き続き調査を継続し、データを蓄積していく。
あるべき姿５（35 の展望⑧）
・必要に応じ研究会等を結成し、継続した研究体制を維持する。

あるべき姿６（35 の展望⑨）
・大学等の研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。
・外部研究者の利用促進のために公開できるデータベースを整備する。
・袖ケ浦市史研究や袖ケ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。

Ⅰ　活動目標　　（３）学習・知的交流の拠点になる　－展示更新と情報発信－

Ⅱ　あるべき姿

１．市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩
２．展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪
３．地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫
４．常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬
５．情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。展望⑭
６．未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。展望⑮
７．講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。展望⑯
８．さまざまなメディアを活用し、博物館活動のＰＲが継続されている。展望⑰
９．図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。展望⑱
10．利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。展望⑲
11．利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。展望⑳

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望⑩）
・常設展示の通史展示（原始）を部分的に更新した。
・調査研究の成果の一環として企画展を開催した。

あるべき姿２（35 の展望⑪）
・企画展Ⅰ・Ⅱでは、地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。企画展Ⅲは陶芸作家の意図を伝えるため、配置や説明を工夫した。
・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。
・企画展チラシ・図録は、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。
・常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。
・入館者数　３館合計 35,272 人
（内訳：本館 22,889 人、アクアラインなるほど館 348 人、旧進藤家住宅 12,040 人）

あるべき姿３（35 の展望⑫）
・地域資料を有効活用し、企画展を開催した。
　：企画展 3 回
・企画展入館者数 12,991 人
　：内訳　企画展Ⅰ6,566 人、企画展Ⅱ4,784 人、企画展Ⅲ1,641 人(3 月 31 日まで)
・企画展・常設展示での収蔵資料活用　3 件
・ロビー展示　6 回

あるべき姿４（35 の展望⑬）
・市民学芸員自主企画展示を行った（6 回）

・令和８年度企画展Ⅰへ向けて企画展ワーキンググループを結成し、各自調査を開始した。
・友の会盆栽の会による盆栽展を行った。３回（春・ミュージアムフェスティバル・秋）
・友の会凧の会による大凧展示を行った。

あるべき姿５（35 の展望⑭）

・万葉植物園の歌碑にＱＲコードを設置した。

あるべき姿６（35 の展望⑮）

・ミュージアム・フェスティバルを開催した。
　：ミュージアム・フェスティバル入場者数　2,213 人
・講座「袖ケ浦学」　５回開催　141 人
・公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。　６回

あるべき姿７（35 の展望⑯）

・企画展等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかリサーチした。

あるべき姿８（35 の展望⑰）

・ホームページ・SNS を利用した PR 活動や情報提供。インスタグラム更新件数　45 回
・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。
　：新聞・地域紙等への掲載回数　４回、ラジオ（かずさＦＭ）の出演回数　14 回

あるべき姿９（35 の展望⑱）

・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス　３件
・図書室での図書閲覧やコピーサービス
・図書室の蔵書を充実し、整理した。　　図書室利用件数　12 件

あるべき姿 10（35 の展望⑲）

・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。
　：レファレンス件数 16 件・回答 16 件

あるべき姿 11（35 の展望⑳）

・市民学芸員や友の会員は、研修室等を活用し、グループ活動を行った。活動件数　159 回

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
１．市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元　**展望⑩**	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	３回	３回	◎
２．わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示　**展望⑪**	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	２件	２件	◎
３．市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施　**展望⑫**	企画展・特別展見学者数	1 回の見学者平均 6,500 人	5,598 人	○
４．市民が自らの意志で参画できる常設展の更新や企画展の開催　**展望⑬**	市民学芸員自主企画展実施回数	５回	６回	◎
５．すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入　**展望⑭**	ＱＲコードの活用	１件	１件	◎

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
６．未来館者への、来館を促す工夫　**展望⑮**	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500人	2,213人	◎
７．市民のニーズを反映した内容の講座開催　**展望⑯**	講座でのアンケート調査件数	3件	1件	◎
８．さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のＰＲ　**展望⑰**	インスタグラム更新件数	6回	45回	◎
９．調べ学習や個人研究への図書室資料の活用　**展望⑱**	図書室利用件数	10件	12件	◎
10. 利用者からの質問･相談に対応できる体制整備　**展望⑲**	レファレンス回答率	100%	100%	◎
11．相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備　**展望⑳**	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件	159件	◎

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望⑩）

･常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展により､新たな情報を公開することができた。

あるべき姿２（35 の展望⑪）

･企画展Ⅰは､地域の古文書を詳細な解説付きで展示し歴史史料への関心を高めることができた。

・企画展Ⅱは、鳥をテーマに生物としての側面だけでなく、考古学・歴史学からのアプローチを試みたことで幅広い層からの来館者を得た。

・企画展Ⅲは作家自身が会場に常駐し、来館者とのコミュニケーションを図ることができた。

あるべき姿３（35 の展望⑫）

・企画展により袖ケ浦市の新たな魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。

・企画展の研究成果を常設展示に活用することができた。

あるべき姿４（35 の展望⑬）

・企画展ワーキンググループは、次年度の展示へ向けて個人で調査研究を重ねることができた。

・盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。

あるべき姿５（35 の展望⑭）

・万葉植物園のＱＲコード設置は、多くの利用者により深い情報を提供することができた。

あるべき姿６（35 の展望⑮）

・袖ケ浦学は地域資料を多く活用し、話題性のある内容などで、多くの参加者を得た。

・公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。

あるべき姿７（35 の展望⑯）

・アンケートにより、個人が考えている要望を調査し、傾向と対策を分析することができた。

・他の社会教育施設の状況から、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。

あるべき姿８（35 の展望⑰）

・各種のメディアにより多くの人にＰＲすることができた

あるべき姿９（35 の展望⑱）

・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。

・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。

あるべき姿 10（35 の展望⑲）
・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。
・質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。
あるべき姿 11（35 の展望⑳）
・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。

◆課　題
あるべき姿１（35 の展望⑩）
・常設展示への市民の意向については、把握できていない。
・トピックス展示開催のためにも日常の調査研究の蓄積は必須である。
あるべき姿２（35 の展望⑪）
・資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。
・昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示に増やす必要がある。
あるべき姿３（35 の展望⑫）
・職員の世代交代が進行しており、質問・要望に幅広く対応できる職員の育成が求められる。
・企画展のための資料調査について、十分な時間が取れているとはいえない。
あるべき姿４（35 の展望⑬）
・展示・企画ができる市民学芸員が限られている。
・定例会やアンケート等により、市民学芸員の自主企画について取り上げやすい環境を整備する。
あるべき姿５（35 の展望⑭）
・展示に多言語対応や、視覚障碍者への対応ができていない。
・館内のインターネットの電波状況が悪い。
あるべき姿６（35 の展望⑮）
・博物館に全く関心がない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。
あるべき姿７（35 の展望⑯）
・アンケート等を活用して講座等に生かすには、対応する職員にも高い経験値が求められる。
あるべき姿８（35 の展望⑰）
・かずさＦＭはリアルタイムでは利用しにくいので館内で試聴できるシステムを検討する。
・SNS については現状以上に活用の余地がある。
あるべき姿９（35 の展望⑱）
・物流ネットワークについては利用が十分ではない。
・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。
あるべき姿 10（35 の展望⑲）
・質問・相談の内容によっては、対応できる職員が限られる。
あるべき姿 11（35 の展望⑳）
・一般の利用者同士が交流できるスペースがない。

◆今後の対応
あるべき姿１（35 の展望⑩）
・アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。
あるべき姿２（35 の展望⑪）
・展示手法についての調査を進め、より効果的な展示をめざす。
・親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示を充実させる。

あるべき姿３（35 の展望⑫）
・調査研究及び学習の時間を多く設けられるように、特別展・企画展の準備期間は他の業務との重複について考慮するようにする。
・資料調査の時間を意識的に設けるようにする。
あるべき姿４（35 の展望⑬）
・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の自主企画について検討する。
・フォローアップ研修で企画・展示についての研修を行う等、市民学芸員の育成を充実させる。
・アクアラインなるほど館の活用などで市民学芸員･友の会員の研究成果発表の場を充実させる。
あるべき姿５（35 の展望⑭）
・多言語化については、英語版解説シートを活用する。
・館内も QR コードを活用した展示解説補助導入を検討する。
あるべき姿６（35 の展望⑮）
・広報・周知の方法について、なるべく多くの媒体を活用する。
・交流センター等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。
あるべき姿７（35 の展望⑯）
・アンケートはロゴフォームの利用等でさらに回答しやすい環境を整備する。
・他の社会教育施設や博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。
あるべき姿８（35 の展望⑰）
・新聞・雑誌・テレビ等、多くのメディアで取り上げられるように、積極的な PR 活動を進める。
・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。
あるべき姿９（35 の展望⑱）
・メールマガジンの活用など、学校教育のニーズを把握するように努める。
・図書室常時開室について検討する。
あるべき姿 10（35 の展望⑲）
・レファレンス記録が蓄積されてきてはいるが､簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。
あるべき姿 11（35 の展望⑳）
・利用者同士が交流できるスペースして、アクアラインなるほど館の活用を促進する。

Ⅰ　活動目標　　（４）地域のつながりを活かす－市民参画と地域連携－

Ⅱ　あるべき姿

１．市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。展望㉑
２．市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。展望㉒
３．地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。展望㉓
４．地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。展望㉔
５．他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、ＮＰＯ等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。展望㉕

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望㉑）

・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。
　：市民学芸員　50 名、博物館友の会　56 名　(令和 8 年 3 月末現在)
・市民学芸員養成講座の通年開催　11 回
・上総掘り技術伝承研究会への活動支援
　：上総掘り技術伝承研究会員　16 名

あるべき姿２（35 の展望㉒）

・企画展、ロビー展及び関連事業の実施
・市民学芸員・友の会との自主企画展の実施　10 回
・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献
　：市民学芸員郷土を学ぶ会　公民館講座等への出前講座

あるべき姿３（35 の展望㉓）

・根形交流センターとの連携を継続して行った。
・市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ケ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や交流センター講座で地域散策を行った。
・夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ケ浦公園を活用した。
・交流センターとの連携の促進
　：根形交流センター地域再発見講座等、交流センター講座への出前講座
　　協力した交流センター講座の件数 6 件、根形交流センター報　原稿提供 4 件

あるべき姿４（35 の展望㉔）

・小学校 3 年生、6 年生の校外学習支援　13 校
　：ボランティア参加延べ人数　60 人
・実物資料、教材の貸し出し　3 件
・教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施　7 件（小学校 6、高校 1）
・教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。
・メールマガジン「そではく通信」を発行した。発行　16 回

あるべき姿５（35 の展望㉕）

・市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力　7 件（交流センター講座含む）
・君津地方公立博物館協議会へ参加
　：研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。
・全国博物館大会（大阪府）への参加
・千葉県博物館協会への参加
・千葉県史料保存活用連絡協議会への参加
・関東地区博物館協会　会報への寄稿　1 件

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
１．博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築　**展望㉑**	市民学芸員・友の会員の会員数	105 人	106 人	◎
２．博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築　**展望㉒**	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	８回	10 回	◎

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
３．地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信　　**展望㉓**	公民館講座のアンケートによる達成度	80%	90%	◎
４．地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進**展望㉔**	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人	延べ 60 人	◎
５．市民の学び・交流がサポートのための、社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、ＮＰＯ等との交流強化**展望㉕**	他団体との連携事業の実施回数	３回	２回	△

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望㉑）

・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに 5 名が市民学芸員となった。

・市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。

あるべき姿２（35 の展望㉒）

・友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。

あるべき姿３（35 の展望㉓）

・根形交流センターとは相互に交流ができた。

・交流センターの講座等で博物館の活動について、多くの市民に周知することができた。

あるべき姿４（35 の展望㉔）

・体験学習スタッフとして市民学芸員が活躍することにより世代間交流が実現した。

・メールマガジンの発行により、学校へのタイムリーな情報発信ができた。

あるべき姿５（35 の展望㉕）

・君津地方公立博物館協議会では、他の加盟館職員と合同で研究を企画し、実施した。

・館長が千葉県博物館協会の会長を務めることで、会の運営等で中心的な役割を果たした。

◆課　題

あるべき姿１（35 の展望㉑）

・市民学芸員は世代交代が進んでいるが、養成講座終了後に活動できる人材は限られている。

・市民学芸員と友の会員との交流が少ない。

・上総掘り技術伝承研究会は、活動が休止している。

あるべき姿２（35 の展望㉒）

・博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。

あるべき姿３（35 の展望㉓）

・地域連携による袖ケ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。

あるべき姿４（35 の展望㉔）

・近年アウトリーチの希望が増加し、職員の負担が増えている。

あるべき姿５（35 の展望㉕）

・地域の企業や NPO との連携が図れていない。

◆今後の対応

あるべき姿１（35 の展望㉑）

・市民学芸員や友の会員は、講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。
・上総掘り技術伝承研究会の活動継続について配慮する必要がある。

あるべき姿２（35 の展望㉒）

・博物館を利用する機関・地域・団体等同士の連携を博物館がサポートする。

あるべき姿３（35 の展望㉓）

・市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ケ浦散策」と刊行した地域文化財報告書を活用し、各地域との連携を深める。

あるべき姿４（35 の展望㉔）

・博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。
・メールマガジン等により、確実に博物館の情報を学校へ届ける。

あるべき姿５（35 の展望㉕）

・企業や NPO 等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。

Ⅰ　活動目標　　（５）安心・安全な施設にする－施設の維持管理と来館者への配慮－

Ⅱ　あるべき姿

１．管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望㉖
２．包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望㉗
３．危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望㉘

Ⅲ　令和６年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望㉖）

・定期的な施設、設備の点検の実施、月１回の安全点検の実施
・急な故障や破損等の修繕
　：万葉植物園木製平橋修繕、本館浄化槽放流槽フロートスイッチ交換修繕、収蔵庫２空調加湿系統純水器交換修繕他

あるべき姿２（35 の展望㉗）

・高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。　53 件（472 人）

あるべき姿３（35 の展望㉘）

・火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施した。　　1 回

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
１．施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理　**展望㉖**	施設の安全点検の実施回数	12 回（月１回）	12 回（月１回）	◎
２．包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営　**展望㉗**	福祉施設見学受け入れ件数	30 件	53 件	◎
３．危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施　**展望㉘**	防災訓練の実施回数	年２回	年１回	×

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望㉖）

・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。

・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位等を把握した。

あるべき姿２（35 の展望㉗）

・高齢者施設団体からは２階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。

あるべき姿３（35 の展望㉘）

・避難訓練・消火訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。

◆課　題

あるべき姿１（35 の展望㉖）

・年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生し、事務の対応に時間を有する。

・改修計画が立てられていない。

あるべき姿２（35 の展望㉗）

・館全体のユニバーサルデザイン計画がなく改修がされていないため、施設的な課題が解消されず蓄積されている。

あるべき姿３（35 の展望㉘）

・地震を想定した避難訓練も実施する必要がある。

・資料の避難についても訓練に入れる必要がある。

・避難訓練・消火訓練が年１回しか実施できていない。

◆今後の対応

あるべき姿１（35 の展望㉖）

・修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。

・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。

あるべき姿２（35 の展望㉗）

・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の事例を調査する。

・昭和展示拡充のため、令和８年度企画展Ⅰの成果を常設展示に取り入れるようにする。

あるべき姿３（35 の展望㉘）

・さまざまな災害を想定した避難訓練を計画的に実施していく。

・避難訓練については必ず２回以上実施する。

Ⅰ　活動目標　　（６）博物館の社会的役割を意識する－地域への貢献－

Ⅱ　あるべき姿

１．周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望㉙

２．博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望㉚

３．収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望㉛

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望㉙）

・袖ケ浦公園主催事業への協力

・君津地方公立博物館協議会加盟簡及び市原歴史博物館との相互協力

：資料調査、企画展協力

・千葉経済大学博物館との相互協力
　：資料調査、資料貸出

あるべき姿２（35 の展望㉚）

・市民学芸員の地域文化財調査への活動支援　地域文化財報告書の刊行、関連講座開催の支援
・市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアの育成
・市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究
・フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成　２回
・山野貝塚ボランティア育成の協力　　（生涯学習課事業）

あるべき姿３（35 の展望㉛）

・高齢者との交流、回想法の試み
　：高齢者施設の見学受入れ、公民館高齢者学級の見学等受入れ
・企画展・常設展による高齢者等の生きがいの創出

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
１．周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開　**展望㉙**	袖ケ浦公園を活用した事業の実施回数	２回	２回	◎
２．博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援　**展望㉚**	市民学芸員定例会参加者数（平均）	15 人	12 回	○
３．収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献　**展望㉛**	高齢者学級等への協力回数	１回	２回	◎

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望㉙）

・近隣市博物館や県内大学との相互協力により、館蔵資料の活用を促進し、調査成果を共有することができた。

あるべき姿２（35 の展望㉚）

・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。
・市民学芸員の調査成果を刊行物にすることで、より大きな達成感を得ることができた。

あるべき姿３（35 の展望㉛）

・展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。
・ひらおかシニアセミナーは、市民学芸員郷土を学ぶ会へ毎年依頼がある。

◆課　題

あるべき姿１（35 の展望㉙）

・袖ケ浦公園については、さらなる活用が考えられる。

あるべき姿２（35 の展望㉚）

・博物館と市民が一体となった計画的な調査研究活動が行われていない。

あるべき姿３（35 の展望㉛）

・これまで単発的な活動しかできていない。
・交流センター高齢者学級等との連携がなされていない。
・高齢者のさらなる社会参加についても検討する必要がある。

◆今後の対応

あるべき姿１（35 の展望㉙）

・袖ケ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。

・近隣博物館との連携を進め、合同企画展や巡回展についても検討する。

あるべき姿２（35 の展望㉚）

・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。

あるべき姿３（35 の展望㉛）

・日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。

・公民館講座と連携し、屋外施設等を活用した健康講座の実現に向けた情報共有。

・退職校長会の人材を博物館事業で活用する。

Ⅰ　活動目標　　（７）博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー

Ⅱ　あるべき姿

１．館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望㉜

２．館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望㉝

３．他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望㉞

４．館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望㉟

Ⅲ　令和７年度の取り組み内容

あるべき姿１（35 の展望㉜）

・全国博物館長会議への出席

・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席

・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席・

あるべき姿２（35 の展望㉝）

・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席

・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席

あるべき姿３（35 の展望㉞）

・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加

・君津地方社会教育研究会への参加

・『袖ケ浦市史研究』等への寄稿

・他機関から依頼された講座での講演。

・『袖ケ浦市史研究』への掲載を前提とした大学研究者との合同調査・研究

あるべき姿４（35 の展望㉟）

・各種研修会への庶務系職員の参加

Ⅳ　自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1.博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集 **展望㉜**	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	１回	３回	◎
2.館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び､専門的知識を獲得のための研修等による資質向上 **展望㉝**	国･県等が主催する研修に出席し､専門的知識を獲得する	３回	９回	◎
3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与**展望㉞**	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	１回	２回	◎
4.館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上 **展望㉟**	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	１回	１回	◎

◆成果・効果

あるべき姿１（35 の展望㉜）

・全国博物館長会議により最新の博物館事情を収集して博物館運営の参考とすることができた。
・千葉県博物館協会会長として、県内の博物館について最先端の情報を入手することができた。

あるべき姿２（35 の展望㉝）

・各博物館協会等が主催する研修会に参加し、知見を深めることができた。

あるべき姿３（35 の展望㉞）

・君津地方社会教育研究会の研修会に参加し、他市職員と交流し情報を共有することができた。

あるべき姿４（35 の展望㉟）

・説明会等に出席し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。

◆課　題

あるべき姿１（35 の展望㉜）

・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。

あるべき姿２（35 の展望㉝）

・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。

あるべき姿３（35 の展望㉞）

・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。

あるべき姿４（35 の展望㉟）

・庶務系職員の研修の機会が少ない

◆今後の対応

あるべき姿１（35 の展望㉜）

・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。
・オンライン会議には積極的に参加する。

あるべき姿２（35 の展望㉝）

・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。
・オンライン開催には積極的に参加する。

あるべき姿３（35 の展望㉞）

・交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。

あるべき姿４（35 の展望㉟）

・希望する研修会には出席できるようにする。

５．令和７年度　運営に関する点検・評価

（１）地域の資料を守る－資料の収集と保管－　　３項目　評価Ａ

施設の老朽化や収蔵庫の収蔵スペースの問題など、施設的な制約はあるが、日常の環境管理により収蔵環境は可能な限り適正に保たれており、資料の整理や収集も計画的に進めることができている。今後もこの取り組みを継続する。

（２）地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－　　６項目　評価Ａ

企画展等を契機に資料調査を実施し、その成果を展示や講座、市史研究等で発表するというように、調査研究と活用の循環ができているが、継続した調査研究のためには専門職員の調査研究の時間を確保する必要がある。調査研究成果の発表の場として、『袖ケ浦市史研究』や袖ケ浦学の他に、ホームページ等の活用も検討する。

（３）学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信　　11 項目　評価Ａ

展示更新については調査研究に基づいて企画展を年３回実施した。市内在住作家の作品展開催や展示準備を市民学芸員と協働で行うなど、市民の要望も考慮しながら実施できている。情報発信や情報提供サービスについては、あまり活用されていない図書室や物流ネットワーク、ＱＲコード活用、多言語化等、改善点は多い。職員の世代交代に伴う問題にも対応していく必要があり、今後も同様の事業を実施していくためには、より一層の調査研究成果の蓄積等が必要である。

（４）地域のつながりを活かす－市民参画と地域連携－　　５項目　評価Ａ

市民学芸員や友の会の活動は活発に行われており、根形交流センターとの連携や博学連携事業は定着し、一定の評価を得ている。地域の企業やＮＰＯとの連携は、課題であるが、他博物館との交流は活発に行われている。

（５）安心・安全な施設にする　―施設の維持管理と来館者への配慮―　　３項目　評価Ｂ

施設については、老朽化による不具合が時々発生するが、適宜対応できている。福祉施設の団体受け入れは積極的に進めている。防災訓練については、火災を想定した避難訓練・消火訓練を１回実施したが、目標の２回を達成できなかった。今後は地震等さまざまな災害を想定した訓練を計画的に年２回以上実施していく。

（６）博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―　　３項目　評価Ａ

袖ケ浦公園を博物館事業で活用することで、公園の魅力や可能性を参加者に提示することができた。ボランティアを育成し、博物館事業を協働で行うことで、文化財への理解促進や各個人の生涯学習に貢献することができた。高齢者の多いグループを受け入れることにより高齢者の生涯学習や生きがい醸成に貢献することができたが、高齢者が個人でも来館しやすいように、親しみの持てる展示をさらに工夫する必要がある

（７）博物館の個性を生かし、能力を伸ばす－自己研鑽と研修参加　　４項目　評価Ａ

研修については、各職員が情報を収集し、希望する研修には参加できている。他機関の研究者や学芸員との交流も活発に行われている。個人の研究成果発表の場としては、館主催事業「袖ケ浦学」や『袖ケ浦市史研究』もさらに活用を進めたい。